

ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)  
直近1年間(2012年2月29日～2013年2月28日)の運用状況について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)」(以下、ファンド)の直近1年間(2012年2月29日～2013年2月28日)の運用状況についてご説明申し上げます。

1. ファンドの基準価額の動きについて

▶2013年2月28日現在、円コース、資源国通貨コース、アジア通貨コースを合計した純資産総額は約338.0億円となっております。

▶直近1年間(2012年2月29日～2013年2月28日)の基準価額(分配金再投資)の騰落率は、以下の通りです。

	毎月分配型	年2回決算型
円コース	-8.99%(設定*来:-12.89%)、	-9.00%(設定*来:-12.87%)
資源国通貨コース	-2.24%(設定*来:-8.62%)、	-2.25%(設定*来:-8.78%)
アジア通貨コース	+4.54%(設定*来:-2.72%)、	+4.53%(設定*来:-2.88%)

※設定日=2011年4月26日

2013年2月28日現在		基準価額	純資産総額
円コース	毎月分配型	8,504円	17.1億円
	年2回決算型	8,704円	71.9億円
資源国通貨コース	毎月分配型	8,112円	117.4億円
	年2回決算型	9,122円	51.8億円
アジア通貨コース	毎月分配型	8,680円	47.4億円
	年2回決算型	9,712円	32.4億円

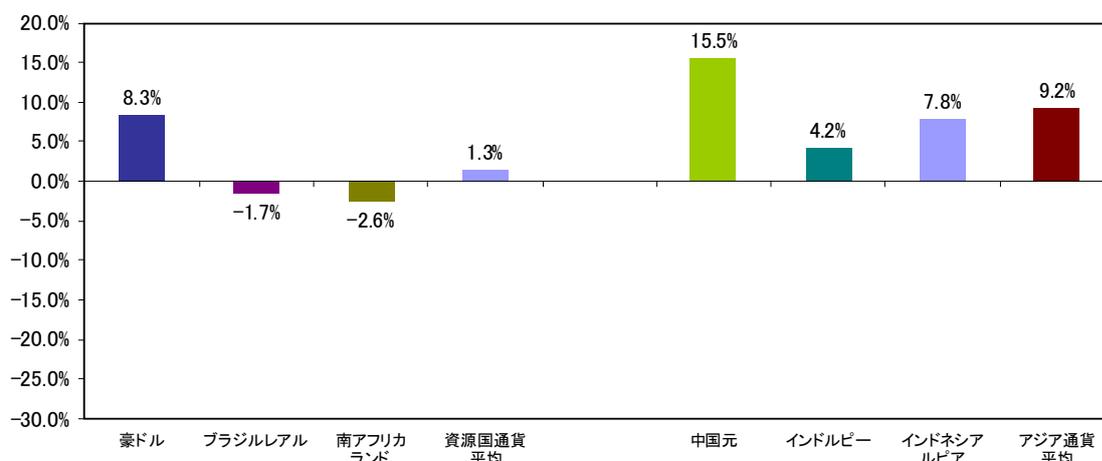
上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

▶共通ポートフォリオがマイナスリターンとなったことが影響し、円コースおよび資源国通貨コースの基準価額(分配金再投資)は下落しました。アジア通貨は円に対して大きく上昇したため、アジア通貨コースの基準価額(分配金再投資)は上昇しました。

## 2. 為替の変動について

当該期間初から2012年の中頃にかけては、欧州債務不安に対する各国当局の対応や主要経済統計の発表等に市場が一喜一憂する状態が続き、投資家のリスク許容度は頻繁な反転を繰り返す状態がみられました。為替市場においては概して円高の進展がみられました。その後、米欧当局による追加金融緩和策の実施等により投資家のリスク許容度は改善がみられました。さらに、昨年末から今年初にかけて日本の政権交代への期待感に端を発する円安が進展したことで、各通貨においてリターンの大幅な改善がみられました。

(ご参考) 為替(対円レート)市場の騰落率について  
(期間:2012年2月28日～2013年2月27日)



資源国通貨平均は豪ドル、ブラジルレアル、南アフリカランドの騰落率の平均値です。アジア通貨平均は中国元、インドルピー、インドネシアルピアの騰落率の平均値です。各為替は、ノムラ・バンク(ルクセンブルグ)エス・エー提供のデータを使用。上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## 3. ファンドの実質的な投資先の状況について

各コースは、円建ての外国投資信託であるマネージド・フューチャーズ・ディバーシファイド・ファンドの対応する各通貨クラスに主に投資します。

各通貨クラスで行なわれる為替ヘッジの影響を除いた外国投資信託の収益の大部分は、マン・インベストメンツ・リミテッドが運用を担当するAHLプログラムに依存しており、当該部分の2012年2月27日～2013年2月26日における運用の詳細は次ページ以降にてご説明いたします。

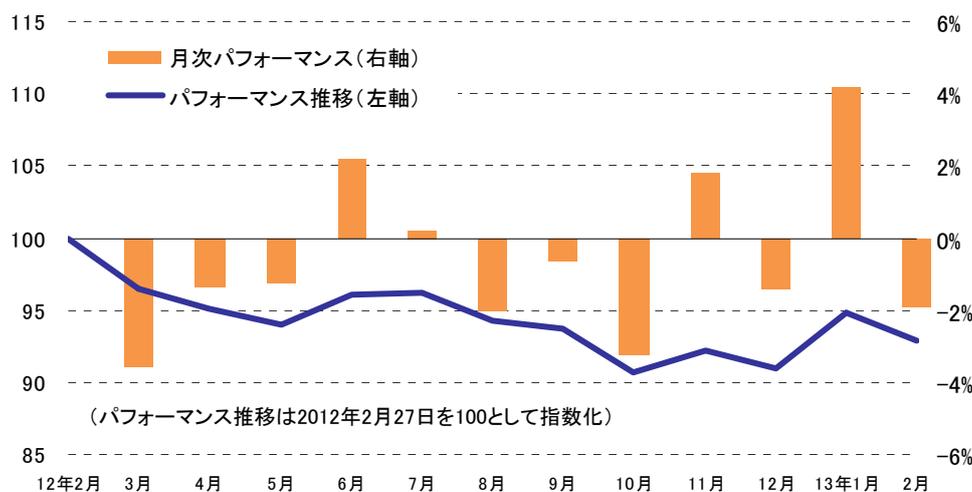
「ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)」(2012年2月29日～2013年2月28日)におけるAHLプログラムの動きと背景についてご説明申し上げます。

当運用期間の市場環境は、欧州債務問題、景気見通しや米国の「財政の崖」問題等、市場の不透明感から投資家心理が不安定となり、市場がリスク・オン/リスク・オフの動きを繰り返し、トレンドの反転が短期間に頻繁に観測されました。その結果、AHLプログラムにとり難しい運用環境となりました。

## 1. AHLプログラムのパフォーマンスについて

- 2012年2月27日～2013年2月26日の期間、AHLプログラムは**-7.1%**<sup>1</sup>。
- AHLプログラムは、2012年3-5月及び8-10月に特に苦戦しました。3-5月は景気見通しや欧州債務問題に対する市場の見方の変化から債券、株式、通貨やエネルギー市場での大きなトレンド反転が観測されました。また、8-10月は通貨や金属市場が米国の量的緩和期待、欧州債務問題への懸念後退から、株式は業績懸念、エネルギーは需給要因等からそれぞれトレンドが反転しました。一方、2012年6月は世界経済の減速懸念を背景とした原油安トレンド、2012年11月はリスク・オフの動きを受けた債券高トレンド、2013年1月は株高及び円安トレンドを背景に良好なパフォーマンスでした。

AHLプログラムのパフォーマンス<sup>1</sup>  
(2012年2月27日～2013年2月26日、月次)



## AHLプログラムの月次パフォーマンス<sup>1</sup>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2011年	-	-	-	-	-3.9% <sup>2</sup>	-1.4%	2.5%	2.9%	-1.4%	-4.9%	1.5%	-0.9%	-5.9%
2012年	-1.3%	3.0%	-3.5%	-1.4%	-1.2%	2.2%	0.2%	-2.0%	-0.6%	-3.3%	1.8%	-1.4%	-7.5%
2013年	4.2%	-1.9%											2.2%

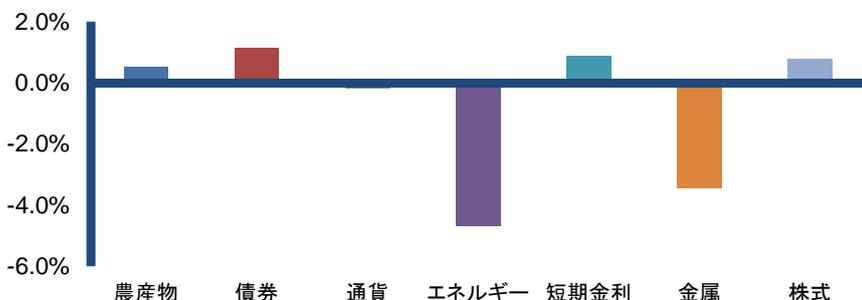
出所:マン・データベース。<sup>1</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムのパフォーマンス(米ドル建て)。AHLプログラムの各月の騰落率は、ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)の各暦月の騰落率に反映されている期間の騰落率。<sup>2</sup>4月27日～

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

2. セクター別の運用概況(2012年2月27日～2013年2月26日)

セクター別寄与度<sup>1</sup>



- セクター別では、**エネルギー**や**金属**セクターが主にパフォーマンスにマイナスに影響しました。米国の量的緩和への期待、先行きの景気見通しや欧州債務問題への懸念に対する投資家の見方が短期的に変動し、市場がリスク・オン/リスク・オフの動きを繰り返したことから、市場でトレンドの反転が頻繁に観測されました。
- 一方、**株式**及び**債券**セクター等がパフォーマンスにプラス寄与しました。株式は2012年12月から2013年1月にかけて景況感の改善や日本での政権交代による金融緩和や景気刺激策への期待を背景に上昇局面が見られました。また、債券では欧州の債務危機への懸念が後退するなどリスク許容度が高まる局面において相対的に利回りの高い欧州の債券に上昇トレンドが観測されました。

セクター	損益	主なプラス寄与銘柄	主なマイナス寄与銘柄	コメント
エネルギー	マイナス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油: 買い</li> <li>・軽油: 買い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に原油相場が、世界経済の不透明感や中東における地政学リスクの高まり、ハリケーンやシェールガスの影響など、強弱入り混じる要因が重なった結果、トレンドの急激な反転後に横ばい相場が続くなど、当運用期間を通じて難しい運用環境となりました。</li> <li>・当運用期間を通じて、原油の買いポジションが最もマイナスに寄与しました。</li> </ul>
金属	マイナス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミニウム: 売り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銅: 買い/売り</li> <li>・金: 買い/売り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米の金融当局の政策や需給要因などを背景に、貴金属市場の急反発・急反落が観測された2012年7-10月に損失が集中しました。</li> <li>・当運用期間を通じて、銅のポジション(買い/売り双方)が最もマイナスに寄与しました。一方、アルミニウムの売りポジションはプラス要因でした。</li> </ul>

出所: マン・データベース、Bloomberg。 <sup>1</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムの運用実績(米ドル建て)に基づく。取引対象である先物取引等の月間騰落率に対するセクター別の寄与度。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、**ファンドの運用実績**ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

	損益	主なプラス寄与銘柄	主なマイナス寄与銘柄	コメント
通貨	マイナス	・ユーロ売り/英ポンド買い ・円売り/米ドル買い	・南アフリカ・ランド買い/米ドル売り ・豪ドル買い/米ドル売り	<p>・米ドル、豪ドルやユーロ等の主要通貨に対し円が下落した2012年12月から2013年1月に円の売りポジションから収益を獲得する一方、損失は主に米ドルの反発、豪ドルの下落が見られた2012年3月や5月に集中しました。</p> <p>・当運用期間を通じて、米ドルに対する南アフリカ・ランドの買いポジションが最もマイナスに寄与しました。一方、英ポンドに対するユーロの売りポジションはプラス要因でした。</p>
農産物	プラス	・コーヒー: 売り ・大豆ミール: 買い	・トウモロコシ: 買い ・小麦: 売り	<p>・米国の干ばつの影響を受けて、大豆などの主要農産物の上昇トレンドが観測された2012年7-8月にリターンが集中した一方、同トレンドの反落が見られた9月や、トウモロコシ相場などが急落した12月の損失が目立ちました。</p> <p>・当運用期間を通じて、コーヒーの売りポジションが最もプラスに寄与しました。一方、トウモロコシの買いポジションはマイナス要因でした。</p>
株式	プラス	・スイスSMI株価指数: 買い ・VIXボラティリティ指数: 売り	・韓国KOSPI指数: 買い/売り ・インド・CNX NIFTY指数: 売り/買い	<p>・欧州の景況感が改善し、日本の政権交代により金融緩和や景気刺激策への期待が高まった2012年12月から2013年1月に特に大幅な利益を確保しました。</p> <p>・当運用期間を通じて、スイスSMI株価指数の買いポジションが最もプラス寄与しました。一方、韓国KOSPI指数のポジション(買い/売り双方)はマイナス要因でした。</p>
短期金利	プラス	・ユーロボー金利: 買い ・ユーロダラー金利: 買い	・豪短期金利: 売り ・英短期金利: 売り	<p>・欧州の債務危機問題への懸念や景気の先行き不透明感が残る中、2012年5-11月に金利は低下基調となり、買いポジションから収益を獲得しました。一方、投資家のリスク許容度の高まった12月から2013年1月に損失は集中しました。</p> <p>・当運用期間を通じて、ユーロボーの買いポジションが最もプラスに寄与しました。一方、豪短期金利の売りポジションはマイナス要因でした。</p>
債券	プラス	・フランス国債: 買い ・日本国債: 買い	・米国債: 買い ・豪国債: 買い	<p>・投資家のリスク回避的な動きが強まった2012年5月や11月に金利が低下基調となる中、買いポジションから利益を確保しました。一方、景気回復期待や欧州債務懸念が後退した3月や、12月から2013年1月に損失が集中しました。</p> <p>・当運用期間を通じて、フランス国債の買いポジションが最もプラス寄与しました。一方、米国債の買いポジションはマイナス要因でした。</p>

出所: マン・データベース、Bloomberg。ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラム(米ドル建て)に基づく。取引対象である先物取引等の月間騰落率に対するセクター別の寄与度。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡す投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

WTI原油先物(2012年2月27日～2013年2月26日)



銅先物(2012年2月27日～2013年2月26日)



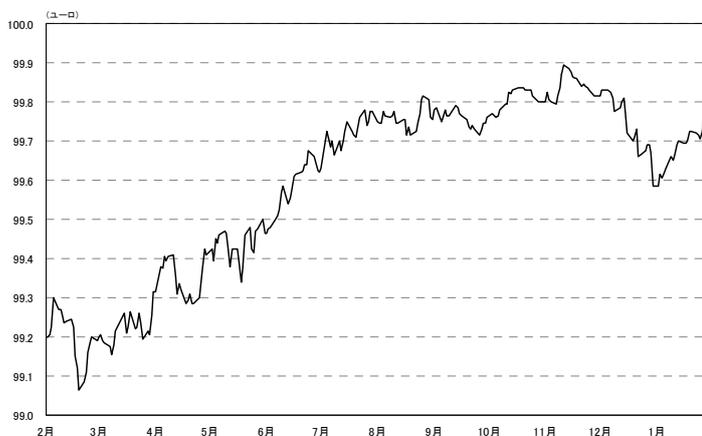
コーヒー先物(2012年2月27日～2013年2月26日)



スイスSMI株価指数先物(2012年2月27日～2013年2月26日)



ユーロボ一金利(2012年2月27日～2013年2月26日)



日本国債先物(2012年2月27日～2013年2月26日)



出所: マン・データベース、Bloomberg。

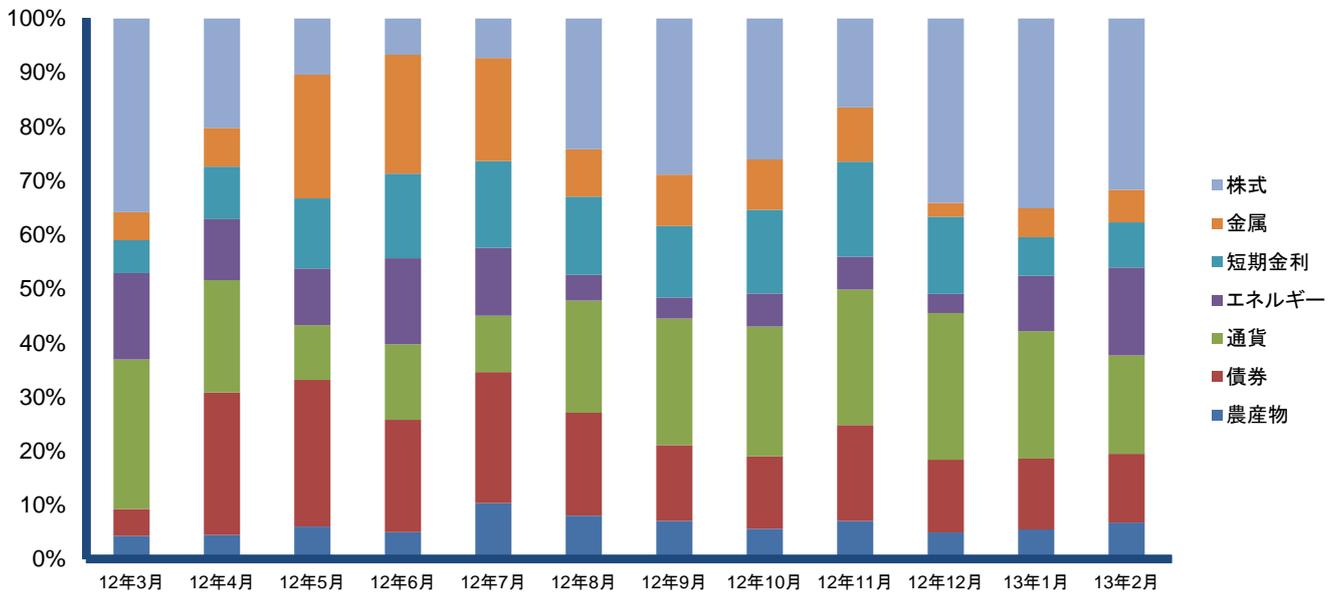
上記の各市場は、AHLプログラムが実際に取引している市場とは異なることがあります。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

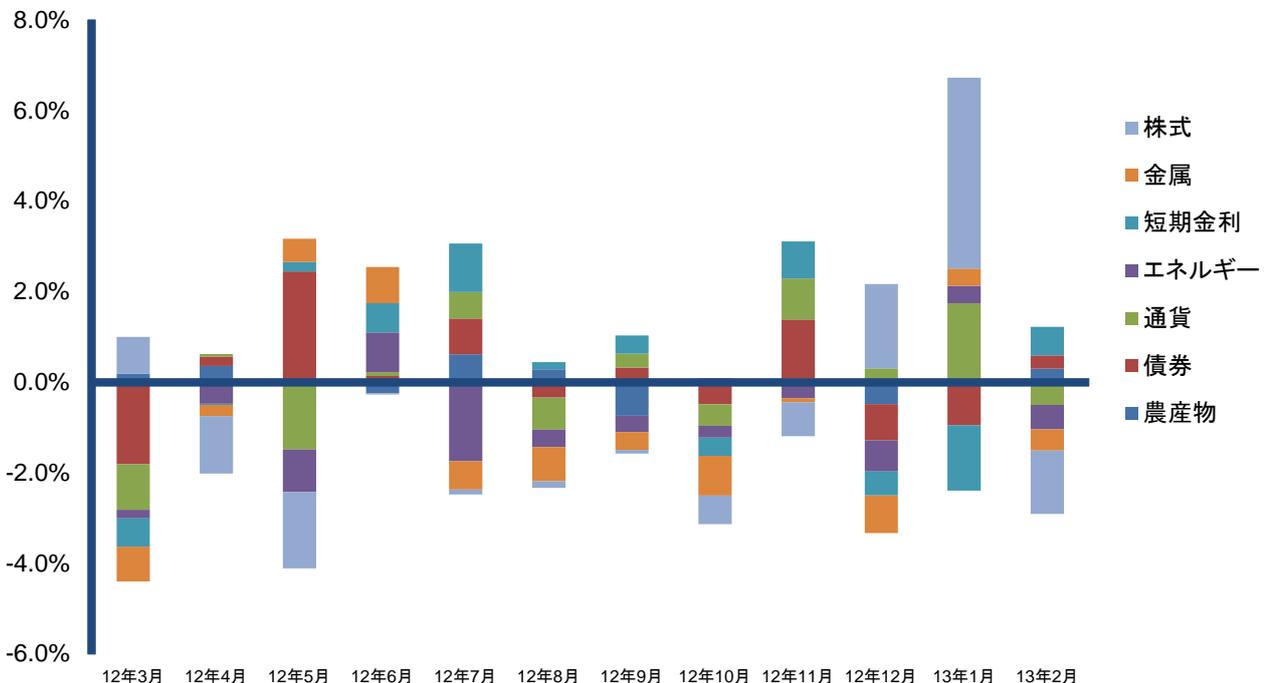
当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

### 3. セクター別リスク配分、セクター別寄与度の推移

セクター別リスク配分<sup>1</sup>の推移(2012年3月～2013年2月、月末値)



セクター別寄与度<sup>2</sup>の推移(2012年3月～2013年2月)



出所:マン・データベース。<sup>1</sup>取引対象である先物取引等のセクター別リスク配分であり、セクター毎のバリュアット・リスク\*をもとに計算されています。\*統計的手法を使って、市場リスクの予想最大損失額を算出する指標。<sup>2</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムの運用実績(米ドル建て)に基づく。取引対象である先物取引等の月間騰落率に対するセクター別の寄与度。各月の期間は、ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)の各暦月の騰落率に反映されている、AHLプログラムの運用期間。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

#### 4. 市場のテーマとAHLプログラムの主なポジション

	12年3月		4月		5月	
市場のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FOMCにおける景気判断引き上げ等を受けて、リスク選好度が高まり、株式は上昇基調。</li> <li>・債券や貴金属等の安全資産は下落。</li> <li>・コモディティは全般的に軟調な展開となり、資源国通貨も下落。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペインやイタリアを中心とした欧州債務問題の再燃、米国及び中国の景気見通しに対する懸念等を背景に、投資家のリスク許容度が低下し、株式やコモディティが下落。</li> <li>・一方、債券は上昇。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシャのユーロ離脱リスクが高まったことなどを受けて、株式やコモディティが下落。</li> <li>・スペインの財政問題、米銀大手JPモルガンの巨額損失も懸念材料。</li> <li>・一方、債券は上昇。通貨市場では、米ドル高、ユーロ安が進行。</li> </ul>	
主なポジション	米国債	買×	日経平均	買×	米S&P500指数	買×
	豪ドル	買×	原油	買×	トルコ・リラ	買×
	金	買×	銅	買×	原油	買×
	原油	買×	大豆	買○	ドイツ国債	買○
	米S&P500	買○	ドイツ国債	買○	アルミニウム	売○
	コーヒー	売○				

\*「○」はAHLプログラムのパフォーマンスに対するプラス寄与を、「×」はパフォーマンスに対するマイナスの影響を示しています。

	6月		7月		8月	
市場のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月後半には、ユーロ圏財務相電話会議でスペイン支援を合意したことや、ギリシャの再選挙の結果を受けてギリシャのユーロ離脱懸念が後退したことなどから、株式は上昇し、債券は下落。</li> <li>・通貨市場では、米ドル安が進行。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・米景気後退懸念や、スペインの財政問題などが懸念材料となった一方、ECB総裁によるユーロ支援発言が好感され、株式は横ばい相場。</li> <li>・米ドル高、ユーロ安が進行。原油は反発上昇。</li> <li>・米国の干ばつ懸念から、小麦などの農産物が急騰。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月前半には、米雇用統計や住宅関連指標が予想を上回る結果となったことなどから、債券は下落。月後半にFOMC議事録を受けて、追加緩和観測が高まり反発上昇。</li> <li>・ドイツのメルケル首相によるECB支持発言などが好感され、原油は続伸。</li> <li>・米ドル安、ユーロ高が進行。</li> </ul>	
主なポジション	原油	売○	ユーロダラー金利	買○	銀	売×
	アルミニウム	売○	米国債	買○	豪ドル	買×
	ユーロダラー金利	買○	小麦	買○	原油	売×
	砂糖	売×	スウェーデン・クローナ	買○	米国債	買×
	TOPIX	売×	原油	売×	大豆	買○
			金	売×	ユーリボー金利	買○

\*「○」はAHLプログラムのパフォーマンスに対するプラス寄与を、「×」はパフォーマンスに対するマイナスの影響を示しています。

出所:マン・データベース、Bloomberg。ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムの運用実績(米ドル建て)に基づく。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

	9月	10月	11月
市場のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ECBによる新たな国債買取政策の発表や、FRBによる追加的な金融緩和策の発表などが好感され、株式は上昇。</li> <li>• 一方、債券は乱高下。</li> <li>• 世界主要国における景気刺激策に対する期待などから、銅が急騰。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 世界的な景気減速懸念に加えて軟調な企業業績見通しが嫌気され、米国株が下落。アジアや欧州株は上昇。</li> <li>• 債券は方向感に乏しい展開が続く。米ドル、ユーロも横ばい相場。</li> <li>• 金は、主要輸入国であるインドと中国からの需要の減少を受け急落。原油や銅も下落。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 株式市場は総じて前半下落、後半に反発上昇する展開。米国株は下落した一方、英国、ドイツ、香港などの株式市場は上昇。日本株は衆議院解散決定し、政権交代への思惑から上昇。</li> <li>• ECB理事会による弱気の景気見通しなどを受けて債券は上昇。</li> <li>• 米国の「財政の崖」問題などを受けて、金は上昇。</li> </ul>
主なポジション	大豆 買× 天然ガス 売× アルミニウム 売× ユーロダラー金利 買○ 米国債 買○ メキシコ・ペソ 買○	金 買× 米ナスダック100指数 買× 米国債 買× カナダ・ドル 買× ユーロダラー金利 買× 砂糖 売○	米国債 買○ 韓国ウォン 買○ ユーロダラー金利 買○ 米ナスダック100指数 買× 原油 売×

\*「○」はAHLプログラムのパフォーマンスに対するプラス寄与を、「×」はパフォーマンスに対するマイナスの影響を示しています。

	12月	13年1月	2月
市場のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本での政権交代、米国の「財政の崖」回避期待や、中国景気の改善基調などを受けて、世界的に株式は上昇。</li> <li>• 大幅な円安、ユーロ高が進行。</li> <li>• 市場予想を上回る米国の経済指標の発表などを受けて、米国債や金は下落、原油は上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 米国の「財政の崖」回避や、米中景気の回復期待、日銀による追加金融緩和決定などを受けて、株式は続伸した一方、債券は軟調な展開。</li> <li>• 通貨市場では、円安、ユーロ高が継続。</li> <li>• 原油も続伸。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• イタリア総選挙の結果を巡り、政治的な先行き不透明感が広がり、投資家はリスク回避の動きとなり、株式は反落、一方、債券は反発上昇。</li> <li>• 通貨市場では、ユーロが反落、円は反発。</li> <li>• 原油、銅も反落。</li> </ul>
主なポジション	米国債 買× 金 買× 原油 売× 小麦 買× ユーロダラー金利 買× 日経平均 買○	米S&P500指数 買○ 円 売○ 金 買○ 原油 買○ ユーロダラー金利 買× 米国債 買×	株式 買× 暖房油 買× 豪ドル 買× 銅 買× 米国債 買○ 小麦 売○

\*「○」はAHLプログラムのパフォーマンスに対するプラス寄与を、「×」はパフォーマンスに対するマイナスの影響を示しています。

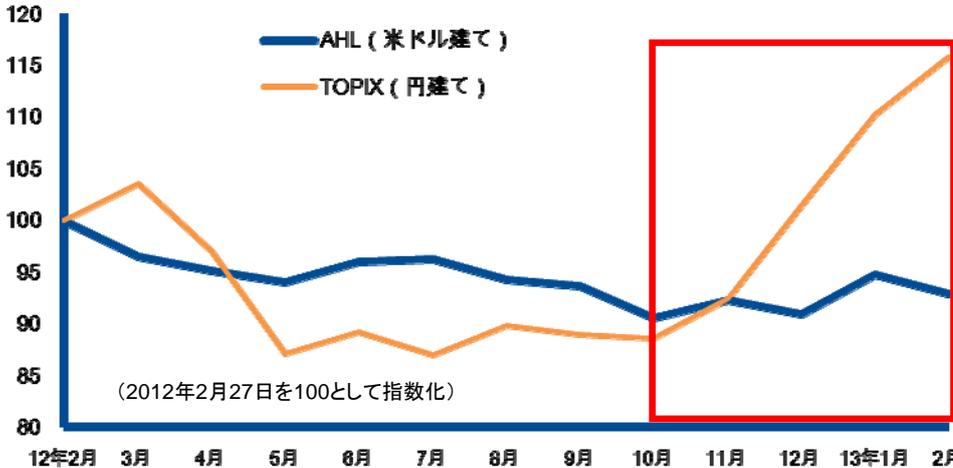
出所：マン・データベース、Bloomberg。ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムの運用実績(米ドル建て)に基づく。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

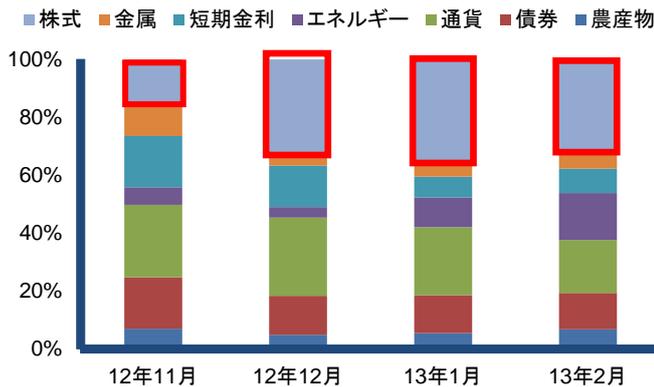
当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

5. 2012年11月以降の株式上昇局面におけるAHLのパフォーマンスについて

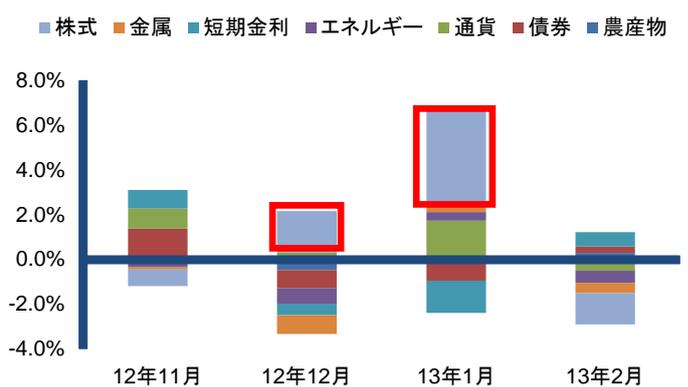
AHLプログラムのパフォーマンス<sup>1</sup> (2012年2月27日～2013年2月26日、月次)



セクター別リスク配分<sup>2</sup>の推移(2012年11月～2013年2月)



セクター別寄与度<sup>3</sup>の推移(2012年11月～2013年2月)



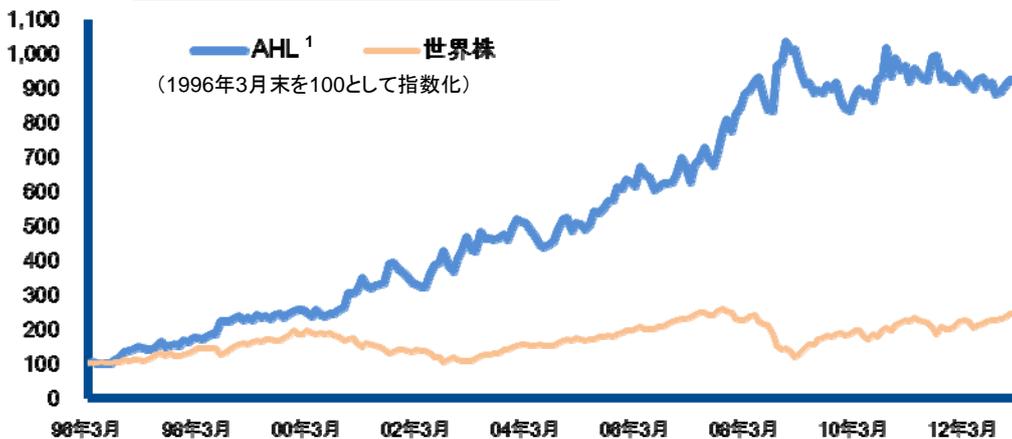
- 2012年11月半ば以降、衆議院議員選挙における自民党の圧勝を受けて、景気浮揚への期待が高まったことなどから日本株相場は大幅に上昇しました。
- 米国の「財政の崖」や世界経済の先行きが懸念された一方、2012年7-9月期米GDP成長率の上方修正や、中国景気の底打ち観測などを受けて投資家のリスク選好度が高まったことなどから、米国債やユーロダラー金利は方向感に乏しい相場展開となりました。
- その結果、日経平均株価の買いポジションや、米ドル買い/円売りのポジション等から収益を獲得し、**株式**や**通貨**セクターがパフォーマンスにプラス寄与した一方、ユーロダラー金利や米国債、原油の取引などから損失を被り、**短期金利**や**債券**、**エネルギー**セクターはマイナスに影響しました。
- AHLでは、多くの市場に投資を行なうことで幅広い収益機会を追求すると同時に、株式を始め7つのセクターに分散投資をすることでリスク管理を実施しています。上図のように株式の急激な上昇局面において短期的にはパフォーマンスが劣後することがこれまでも見られましたが、長期的には株式を大きく上回る実績をあげています(次ページを参照)。

出所:マン・データベース、Bloomberg <sup>1</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムのパフォーマンス(米ドル建て)に基づく。<sup>2</sup>取引対象である先物取引等のセクター別リスク配分であり、セクター毎のバリュー・アット・リスク※をもとに計算されています。※統計的手法を使って、市場リスクの予想最大損失額を算出する指標。<sup>3</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムの運用実績(米ドル建て)に基づく。取引対象である先物取引等の月間騰落率に対するセクター別の寄与度。各月の期間は、ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)の各暦月の騰落率に反映されている、AHLプログラムの運用期間。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡す投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

AHLプログラムのパフォーマンス  
(1996年3月末～2013年2月末、月次)



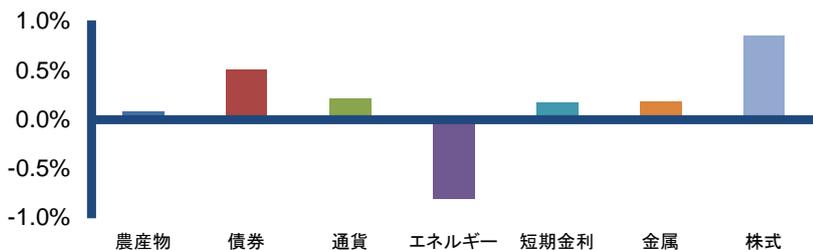
出所:マン・データベース。<sup>1</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムを用いて運用されている、「マン・AHL ディバーシファイドピーエルシー※」のパフォーマンス(関連費用控除後)です。過去の「マン・AHL ディバーシファイドピーエルシー※」の運用実績であり、ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)の将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※1996年3月に設立されたアイルランド籍の会社型投資信託です。ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムを用いて運用されています。ただし、国内、海外の規制等により、「マン・AHL ディバーシファイドピーエルシー」とノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託の投資対象は一部異なります。  
 AHL:マン・AHL ディバーシファイドピーエルシー(米ドル建て)  
 世界株:MSCI世界株価指数(日次トータル・リターン・ネット、米ドル)

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

6. 直近のAHLプログラムの状況(2013年3月4日現在)

- 2013年2月26日～3月4日の期間、AHLプログラムは+1.2%<sup>1</sup>

セクター別寄与度<sup>2</sup>



2013年2月26日～3月4日

市場のテーマ	・良好な内容を示す米国の経済指標の発表を受け、株式市場は反発上昇。また、原油は米国の在庫見通しの増加、発表された米国のGDPや中国の経済指標が予想を下回ったことから下落。	
主なポジション	株式	買○
	フランス国債	買○
	メキシコ・ペソ	買○
	原油	買×

\*「○」はAHLプログラムのパフォーマンスに対するプラス寄与を、「×」はパフォーマンスに対するマイナスの影響を示しています。

出所:マン・データベース。<sup>1</sup>ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)が組み入れている外国投資信託におけるAHLプログラムのパフォーマンス(米ドル建て)に基づく。<sup>2</sup>取引対象である先物取引等の月間騰落率に対するセクター別の寄与度。

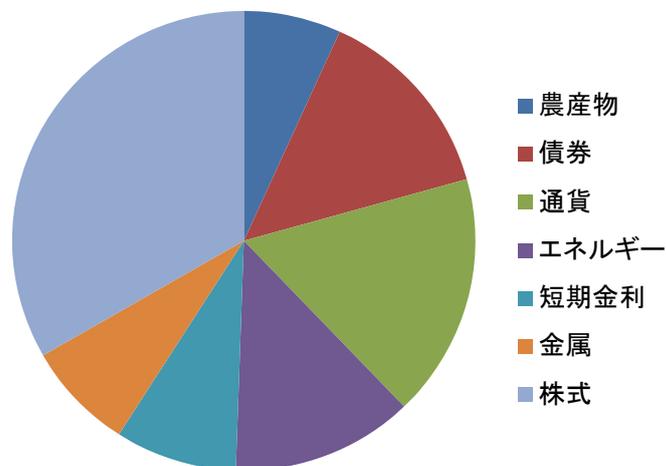
上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

2013年3月4日現在のポジション

セクター	銘柄	ポジション
債券	米国債	買い
	独長期国債	買い
短期金利	ユーロダラー金利	買い
株式	米S&P500	買い
	日経225	買い
通貨	円/米ドル	円売り/米ドル買い
	円/ユーロ	円売り/ユーロ買い
	ブラジル・リアル/米ドル	リアル買い/米ドル売り
エネルギー	WTI原油	売り
	天然ガス	売り
金属	金	売り
	銀	売り
	銅	売り
農産物	トウモロコシ	買い
	小麦	売り

セクター別リスク配分<sup>1</sup>



出所:マン・データベース。<sup>1</sup>取引対象である先物取引等のセクター別リスク配分であり、セクター毎のバリュー・アット・リスク\*をもとに計算されています。  
※統計的手法を使って、市場リスクの予想最大損失額を算出する指標。

上記は過去のデータであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

7. 今後のAHLプログラムの運用方針

- トレンド捕捉期間の調節や相関性の低い新規市場の拡張、既存のトレンド・フォロー戦略を補完する戦略の開発・追加等運用モデルの研究・開発・改良を通じて、運用成績の更なる向上を目指します。また、積極的な電子トレーディングの導入による取引コストの低減も継続的に実施して参ります。今後も社内のリサーチ・インフラ及びオックスフォード大学における研究所を最大限に活用し、一貫したシステム運用を継続していく所存です。
- また、人員面において昨年もリスク管理担当者やリサーチにおける豊富な経験ある人材を外部より採用することでリサーチ、リスク管理の強化を通じ、組織体制の強化を図っています。

引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

以上

<当資料で使用した指数について>

●MSCI世界株価指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメンツ・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【ファンドの特色】

- 「ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)」は、投資する外国投資信託において為替ヘッジ手法の異なる3つのコース(円コース、資源国通貨コース、アジア通貨コース(各コースには「毎月分配型」、「年2回決算型」があります。))から構成されています。
- 信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。
- 世界各国の債券先物取引、株価指数先物取引、金利先物取引、商品先物取引および為替予約取引等を主要取引対象とする、円建ての外国投資信託「マネージド・フューチャーズ・ディバースファイド・ファンド」および国内投資信託「野村マネー マザーファンド」を主要投資対象とします。

■外国投資信託「マネージド・フューチャーズ・ディバースファイド・ファンド」の主な投資方針について■

- ◆ 世界各国の債券先物取引、株価指数先物取引、金利先物取引、商品先物取引、および為替予約取引等を積極的に活用し、主として市場動向の方向性にそって多数の先物等についてロング・ポジション、あるいはショート・ポジションを構築することにより、中期的に米ドルベースでの絶対収益の獲得を目指して運用を行なうことを基本とします。運用にあたっては、他の投資信託証券を通じて、各投資対象市場に対して投資を行なう場合があります。
- ◆ 各投資対象市場における日々の価格データ等を勘案した多数の独自の定量モデルを活用することにより、市場の上昇トレンドならびに下降トレンドの双方を捉え、追従することを目指します。

・ 各コースは、外国投資信託において、共通ポートフォリオを通じて債券先物取引、株価指数先物取引、金利先物取引、商品先物取引および為替予約取引等の運用を行ないます。

円コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	共通ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、原則として純資産総額とほぼ同額程度、米ドル売り円買いの為替取引を行なう外国投資信託に投資を行ないます。
資源国通貨コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	共通ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、原則として純資産総額とほぼ同額程度、米ドル売り資源国通貨(ブラジル、オーストラリア、南アフリカの3カ国の通貨のバスケット)買いの為替取引 <sup>※1</sup> を行なう外国投資信託に投資を行ないます。
アジア通貨コース (毎月分配型) / (年2回決算型)	共通ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、原則として純資産総額とほぼ同額程度、米ドル売りアジア通貨(中国、インド、インドネシアの3カ国の通貨のバスケット)買いの為替取引 <sup>※2</sup> を行なう外国投資信託に投資を行ないます。

※1 米ドル売りブラジルレアル買いの為替取引、米ドル売り豪ドル買いの為替取引、米ドル売り南アフリカランド買いの為替取引を、純資産総額の3分の1程度ずつ行ないます。

※2 米ドル売り中国元買いの為替取引、米ドル売りインドルピー買いの為替取引、米ドル売りインドネシアルピア買いの為替取引を、純資産総額の3分の1程度ずつ行ないます。

◆ 通常の状況においては、「マネージド・フューチャーズ・ディバースファイド・ファンド」への投資を中心とします<sup>※</sup>が、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。

※通常の状況においては、「マネージド・フューチャーズ・ディバースファイド・ファンド」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

- 各コースはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- 「ノムラ・グローバルトレンド(バスケット通貨選択型)」を構成する「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングができます。

● 分配の方針

◆ 毎月分配型

原則、毎月23日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として、配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。なお、毎年3月および9月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※「原則として、配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。

◆ 年2回決算型

原則、毎年3月および9月の23日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

\* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメント・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【投資リスク】

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて様々な先物取引等を実質的な取引対象としますので、株価変動、金利変動、商品価格の変動等の影響により基準価額が下落することがあります。また、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※ファンドの基準価額の変動要因には、この他にも、取引先リスクなどがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成28年3月23日まで(平成23年4月26日設定)
- 決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月23日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。  
【年2回決算型】年2回の決算時(原則3月および9月の23日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌々営業日の基準価額
- ご購入単位 一般コース: 300万円以上1万円単位(当初元本1口=1円)  
自動けいぞく投資コース: 300万円以上1円単位  
※お取扱コース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングが可能です。  
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、下記に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。

円コース 資源国通貨コース	○申込日当日または翌営業日が以下のいずれかの休業日と同日の場合または12月24日である場合 ・ニューヨークの銀行・ニューヨーク証券取引所 ・ロンドンの銀行・ルクセンブルクの銀行
アジア通貨コース	○申込日当日または翌営業日が以下のいずれかの休業日と同日の場合または12月24日である場合 ・ニューヨークの銀行・ニューヨーク証券取引所 ・ロンドンの銀行・ルクセンブルクの銀行 ・ジャカルタの銀行
	○申込日当日または翌営業日が、中国またはインドの連休等で、ご購入、ご換金のお申込みの受け付けを行わないものとして委託会社が指定する日の場合

- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。

【当ファンドに係る費用】

(2013年3月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に4.2%(税抜4.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年0.9975%(税抜年0.95%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。  実質的にご負担いただく信託報酬率 (信託報酬に、ファンドが投資対象とする外国投資信託の信託報酬を加えた概算値) 年3.2975%程度(税込)+成功報酬* ※成功報酬: 毎ファンド営業日*の共通ポートフォリオにおける成功報酬控除前基準価額がその時点のハイ・ウォーターマーク*を超えた場合、その超過額の20% *1 ニューヨーク、ロンドンおよびルクセンブルグにおける銀行営業日(毎年12月24日を除く。)、且つ日本における第一種金融商品取引業者(証券会社など)の営業日、且つニューヨーク証券取引所の開場日。 *2 ハイ・ウォーターマークは過去の共通ポートフォリオの成功報酬控除後基準価額の最高額(設定当初は設定時の元本額)とします。
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、ファンドに関する租税、監査費用等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	1万円につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に於いて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

◆お申込みは

野村證券

商号: 野村證券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号  
加入協会: 日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/  
一般社団法人金融先物取引業協会/  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号: 野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的としてマン・インベストメント・リミテッドの情報に基づき野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、先物取引等を実質的な取引対象とします(また、外貨建資産に投資する場合、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。